



日本とドイツのエネルギー転換

政策・認識・実践

国際ミニシンポジウム

2020年2月17日（月）東京（お台場）

13:00 – 17:00

日本科学未来館、コンファレンスルーム土星

日程概要（暫定）

12:30 ~ 受付開始

13:00 – 13:15 開会挨拶と紹介（DWIH, HUOK, 進行役）

13:15 – 14:30 セッションⅠ：エネルギー政策と社会経済的側面

14:30 – 15:00 休憩（登壇者・聴講者にドリンクを用意）

15:00 – 16:15 セッションⅡ：地域エネルギーの概念と統合技術

16:15 – 16:45 聴講者との全体ディスカッション・まとめ

セッション詳細（暫定）

セッションⅠ：エネルギー政策と社会経済的側面

チア： ダニエル クレーマース主任研究員（ドイツ日本研究所）確認中

マキシミリアン ユングマン HCE 所長（ハイデルベルク大学）

エネルギー転換への国内及び国際的な原動力と障壁 – ドイツでエネルギー政策決定に影響を与えるものは何か？

山口 容平 准教授（大阪大学）

エネルギー転換は従来の技術動向をどのように踏み越えるか？日本の建築部門における技術的 CO₂ 削減ポテンシャル研究からの洞察

ティモ ゲシュル 教授（ハイデルベルク大学）

エネルギー転換における世帯の役割：世帯内行動のブラックボックスを開けられるか？

国際ミニシンポジウム 「日本とドイツのエネルギー転換」
日本科学未来館（お台場）「どうする！？エネルギー大転換」展の関連イベントとして開催

セッションII: 地域エネルギーの概念と統合技術

チア： ダニエル クレーマース主任研究員（ドイツ日本研究所）

石原 慶一 教授（京都大学）

九州地域を例に、太陽光発電促進のための電気自動車（EV）の役割
総発電コスト削減に向けて

クラウス プファイルスティッカー 教授（ハイデルベルク大学）

エネルギー節制、エネルギー効率、再生可能エネルギーに基づいた地域エネルギーの概念
(3E) : 事例を示しながら

土屋 範芳 教授（東北大学）

エネルギー価値学と日本の地熱エネルギー